

令和7年度 第17回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年9月30日(火)19:00～

場 所:笠間コミュニティセンター

参加者:9 名



◆ 部会を設けて積極的な事業活動をしています、部会間の連携は課題です

(参加者)

私の方から地区の現状をお話したいと思います。この地域コミュニティ組織(笠間地区まちづくり協議会)スタートして丸1年半が経過しました。現状は、公民館時代からの行事やイベントを継承し、各構成員が主体的に参加して事業活動を盛り上げていただいています。

一方、運営面では新組織立ち上げに伴い部会を設けていますが、部会間の連携が十分に機能しているかと言われると、正直心もとないのが実情です。普段お仕事を抱えながらコミュニティ活動に関わっていただいている皆さんに対し、部会として機能していない部分があることは、会長として責任を感じ、申し訳なく思っております。私自身も旧態依然の意識から抜け切れず、コミュニティセンターに依存しがちな点は、今期半ばを振り返っての反省点です。

また、今日は防災安全部長が欠席していますが、公民館時代になかった防災体制の構築に取り組む中で、正直大変苦心しています。差し当たり11月9日に防災フェスタを予定していますが、イベント開催は初めてのため、各コミュニティを回って見学し、内容を調査しているところです。私も4月から会長となった新米で、皆さんを引っ張っていく形が求められる中、十分にできておらず申し訳ないと思っています。

◆ 地区全体として今後さらに金城大学との連携を進めていきたいと考えています

(参加者)

地区内にある金城大学など周辺の大学組織や各種団体と連携しながら、さまざまな事業を考えています。特に金城大学さんとは、e スポーツに加えて、今年 10 月の文化祭を同じ日に開催するため、何か交流できないか検討しています。時間的に間に合わない部分もありますが、金城大学さんの学園祭に来た方が笠間の文化祭にも足を運べるような仕掛けなど、予算は限られますが工夫して進めたいです。

また、子どもたちが「大学とはどんなところか」を見学する機会や、大人の社会見学として金城大学を地域の事業所の一つとして知ってもらうことも考えています。今後も金城大学さんとコラボしながら事業を進めていきたいです。

一方で、協議会ができて 1 年半ということもあり、各部長や各部がまだ十分に主体的に関われていないのが現状です。センター側の課題でもありますが、事業計画や予算づけも含め、今後は主体的に動けるようになっていく必要があります。ただ、すぐに変わるものではないので、お互いに学び合いながら成長していきたいと思います。

協議会は町内会長会が中心で、部長は 2 年前の町内会長会会長、副部長は今年の町内会長というように、順番に役職を担う形です。人材不足は今のところありませんが、より積極的に関わってもらえればと思っています。各部長が他地区の取り組みを十分知らない面もあるので、交流や情報交換の機会が必要だと感じています。

◆ 継続して敬老の集いを開催し、多くの方に来ていただきました

(参加者)

自分は今年初めて区長理事をさせてもらい、4 月ごろに今年の敬老の集いをどうするかという話が出ました。反対意見も多少ありましたが、敬老の集いを楽しみにしているお年寄りの方が多いと思い、今年は開催することとしました。

結果として多くの方に来ていただき、体育館の中は暑かったものの、扇風機を 3 台か 4 台回して、皆さん汗だくでも参加されていましたので、やってよかったと思います。

公民館からコミュニティに変わっても継続する事業はありますが、参加者が年々高齢になることで参加人数が少し減っている点は課題です。子どもが少ないことも、将来に不安を感じています。

◆ 金城大学と連携して e スポーツや海岸清掃の活動を始めたいと思っています

(参加者)

健康福祉部としては、体育協会の活動や、ウォーキングを主にしている「歩恋う会かさま」の従来

の活動を踏襲する形で進めていますが、実態としては従来からの継続が中心になっていて、これを繋いでいこうと思っています。

我々も部長職をしておりますが、それ以前に事業に携わった経験があるわけではありません。就任前に、市から「こういった活動をしているコミセンがあります」といった事例の提示があると、手探りで進めるよりスムーズになるのではないかと考えております。

今年は、金城大学が取り組んでいるeスポーツの活動と、高齢者の健康福祉をつなげ、今年・来年以降の活動に広げていきたいと思っています。既存で活動されているものがあるので様子を見せていただきましたが、敷居の高いものではなさそうでした。大学生とお年寄りの方が、市販のゲーム機を使い、わいわい話しながら笑顔でプレイされていました。そうした活動を通じて、金城大学さんが健康にどのような影響があるかといった点を研究材料として活用する形で取り組んでいるそうです。

もうすでに何か既存で活動されてらっしゃるものがありまして、その活動を見せていたところ、それほど敷居の高いものでもなさそうで、大学生とお年寄りの方が、eスポーツとは言っても市販のゲーム機になるんですけれども、そういったものをわいわい話しながら、笑顔の中でプレイされている。そういった中を通じて、金城短大さんが健康にどのような影響があるかとかそういったものを、研究材料として使われるような形でやっているそうです。

(参加者)

環境美化部では、コミュニティセンターの景観を守り、維持するための活動を行っています。プラントの管理や水やりをシフトで回し、今年度は夏にあさがおを植えて育てました。年に1回のコミュニティセンターの大掃除も、主な活動の一つです。今後は金城大学さんにも協力いただき、海岸清掃や地域の道路などの清掃もできればと考えています。

(市長)

金城大学が地元にあるのは大きな強みだと思います。いろいろな場面で参加いただけるのは心強いですし、地域コミュニティ組織の皆さんが連携できているのは大変うれしく思います。市内の他コミュニティ組織同士も、交流会が始まっていますので、取り組みの共有や交流も進められると思います。

◆ コミュニティセンターを活用した事業を行い、健康福祉や防災にもつなげていきたいです

(参加者)

生涯学習では、年間行事として市のマイクロバスを借り、いろいろな場所へ出向いて学ぶ取り組みをしてきました。私も子どもが小さい頃は恐竜博物館などに一緒に参加し、今は支える側に回っています。

出かけることも大切ですが、コミュニティセンターをもっと活用できるようにしたいです。防災拠点として調理施設が整っているの、平日の料理教室だけでなく、可能なら土日にも入れて、女性だけでなく男性にも声をかけ、炊き出しのような形で活用できればと思っています。来年は私が部長になる予定ですので、そうした方向で進めたいです。

また、生涯スポーツの面では、隣の軽体育館を週 2 回利用しています。体育協会さんの行事とも連携し、地域の方に体を動かしてもらい、健康福祉にもつながる取り組みにできればと思います。例えば海岸清掃と組み合わせ、終了後にここで簡単なおにぎりなどの朝食を用意する形です。参加者が増え、若い方にも協力いただける可能性があります。

金沢市金石の「ビーサン飛ばし選手権」も、朝に海岸清掃をしてから行事を行い、スポンサーや景品もあって人気があると聞いています。これに近い形で、楽しくごみ拾いができる仕組みを提案したいです。

◆ 地区社協として市社協や地域コミュニティ組織と連携し、住民の要望を取り入れながら高齢者向けふれあいサロンのほか子育て支援事業をしています

(参加者)

笠間地区社協は市社協と協力し、コミュニティセンターとも常に連絡を取り合って活動しています。今年は高齢者向けのふれあいサロン事業に力を入れ、事前に要望を確認したところ、認知症予防、デイサービスの利用方法、介護保険制度、徘徊への対応などの質問がありました。そこで地域包括センターに講義していただき、大変好評でした。

参加される高齢者の方は元気な方が多く、講義の後に軽い運動や体操もしています。高齢者が増える中で、特に 70 歳以上のひとり暮らしが増え、引きこもりがちになることを心配しています。元気な方だけでなく、出てこれない方をどう支えるかは、役員でも考えているところです。

このほか子育て支援事業や敬老マッサージ、福祉講座なども行っています。10 月 27 日 19 時から、このコミュニティセンターで「災害時にライフラインが止まったらどうするか、何を準備すべきか」をテーマに講義を予定していますので、皆様のご協力をお願いします。

(市長)

認知症の件ですが、市では「あたまとからだの健康増進事業」として、体操などを組み合わせた取り組みを行っています。笠間地区でしっかり実施されていると聞き、うれしく思いました。徘徊についても、千代野地区では対応訓練を行っており、今年は私も徘徊者役として参加しました。声のかけ方などを学ぶ訓練です。千代野地区は高齢化率が高く、喫緊の課題としてコミセンを中心に取組まれています。

◆ 社会体育大会やスポーツ行事はより多くの方が参加しやすい種目となるよう工夫しています

(参加者)

笠間体育協会ですが、先ほども体協とタイアップという話がありました。年間 10 回ほど行事を行っています、少しマンネリ化している面もあります。ご年配の方が参加しやすいよう工夫している一方で、健康福祉部もありますので、どうすればより多くの方に参加してもらえるか、例えば車椅子の方にも参加いただけるような形で、競技や行事を検討しています。来年度に向けてどんな種目にするかも、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

(市長)

社会体育大会の参加者は結構いらっしゃるそうですね。最近は皆さんなかなか出てこないこともあって、社会体育大会自体ができていない地区もあります。そうした中で笠間は活発で、いいなと思います。コロナの時は午前中で終わらせたりしていましたが、最近は一日開催していますか。

(参加者)

そうですね。フルではなく、13 時ぐらいまでに終わらせる形です。その後は地域に戻って、懇親会などをしています。

(市長)

それができているということは、地域でしっかりまとまって頑張っているということですね。皆さんのお話を聞いていると、地区がよくまとまって動いているので、そういう中で子どもは育つと思います。

◆ 各種団体や金城大学と交流しながらの子ども会行事を楽しんでいます

(参加者)

今年の子ども会では、地域の老健会の方との交流や、金城大学さんとの交流もあり、いくつか事業を行いました。子どもたちは楽しそうに参加していました。今後も各種団体の皆さんとの交流を深めていけたらいいと思っています。

子どもは、去年は 1 年から 6 年までで 88 人います。コミュニティの方からいろいろ事業提案をいただき、そこに参加しています。子どもたちもいろいろ体験できるので、とても喜んでいます。

(市長)

先ほど話に出た金城大学さんや老健会の皆さんとも含めてですね。余談ですが、11月に白山総合車両所が見学会を実施します。参加人数を倍にして、去年は3000人でしたが、今年は6000人です。先ほどから地元の金城大学さんの名前がよく出てきて、いいなと思っています。

◆ 団体や組織ごとに結ネットやグループラインを活用していますが、全世帯で運用できるシステムを市で用意していただけますか

(市長)

事業などの周知についてですが、これは年間何回かいろいろお知らせしているんですか。結ネットの使い勝手などはどうでしょうか。

(参加者)

大きなお便りは年1回ほどですが、事業についてはセンターだよりで案内しています。今年からインスタグラムも始め、告知や実施報告を載せています。結ネットも使っていますが、ID数に限りがあり全世帯には送れません。送付できる世帯には予定や報告、通知を出しており、少しずつ周知が広がっています。

結ネットは、町民全員が見られるわけではないので使い方は工夫が必要ですが、双方向で安否確認ができるので、去年はその面で活用しました。

(市長)

議会でも、電子と紙を併用するハイブリッド式にしていく必要があるという意見が多いです。DXが難しい方もいるので、全世帯を一気に電子だけにするのは難しいと思いますが、何かしら考えていかなければならない時期に来ていると思っています。

第一歩として、令和8年度に電子回覧板アプリに関する市民アンケートを実施する計画です。アンケート調査の結果を元に、これまでの紙の配布物を電子化することを基本として、市全体での電子回覧板アプリの導入の可否を検討していくこととしています。

(参加者)

ラインという手もあります。子ども会さんは紙の通知をやめてラインで連絡しているので、そうした方法も活用できればと考えています。

(参加者)

子ども会はラインで、学校はテトルというシステムで、紙が減ってきています。お知らせが保護者向けにデジタルで配布され、双方向ではないのですが、欠席の報告が保護者から連絡できます。

ただ、子どもたちにも目を通して欲しいということもあるようで、ある程度最低限の給食の紙とか、献立のメニューとかそういうものは配布されています。

(市長)

周知の方法は、地域コミュニティ組織の活動が増えるほど課題になってきますね。

(参加者)

市長が議場でデジタル化の話をされていました。笠間地区もこのメンバーで頑張っており、今日その成果を聞いていただきましたが、周知はまだ紙での手配りが中心で、配る人も参加する人も固定化しています。来られない方には情報が届きにくく、周知不足が課題です。

そこで結ネットですが、できれば金沢市や野々市のように、市として全世帯対象で運用できるよう予算をつけ、体制を整えてほしいです。そうなれば、各地区もそこに入れますし、町内会長が班長に配布を依頼するような昔ながらの負担も減らせます。その分、別の活動に時間を回せます。

笠間地区は結ネットをいち早く取り入れ、連絡が必要な範囲を登録して使っているのが現状です。ただ、市で全世帯に広げて、笠間地区の全 880 世帯が情報を受け取れるようになれば、そこから発展させて多くのことが可能になります。地域コミュニティ組織の運営も改善できる点が多いと思います。

さらに防災の観点でも、結ネットをフルに活用できるのは大きいです。結ネットを成長させ、まちづくり協議会の中で活用を進められれば、活動がより活発になり、良い結果につながると思いますので、お願いしたいです。

(市長)

いろいろ工夫してやっというしゃいますね。先ほど出ました野々市でも、全部ではなくて、なかなか旧市内は進まずジレンマもあるようです。

(参加者)

一生懸命仕組みを作っても、なかなか浸透しないことがあります。でも結ネットは、防災の点を考えても、大枠を整えてもらわないと進みにくいと思います。防災は、能登半島地震のようなことがいつ起きてもおかしくありません。

結ネットが使えれば、地震や津波の可能性があるとときに、松本の人はここ、石立の人はここ、とい

った一時避難場所を登録でき、告知もできます。今は防災訓練に参加した人は分かっているけど、参加しない人は分からないので、こちらから呼びに行く必要があります。地域のコミュニケーションはもちろん大事ですが、今の時代なので、結ネットをフル活用して、地域で情報共有できるようになると思います。

(参加者)

使っている方からすると、ラインは皆さんが普段使っているのでも使いやすいです。ただ結ネットは、どうしても使いづらい部分があります。基本的な情報量が少なく、使う人が少ないから使う気になれないという面もあると思います。結ネットに限らず、全世帯に情報提供できるツールが何かあればいいと思いますし、ぜひ欲しいです。

コミセンによっては公式ラインを作って、会議室予約など双方向のやり取りができるようにしているところもあります。ただ公式ラインは費用もかかるので、こちらとしては両方は難しいです。ラインにも使いづらさはあり、一長一短です。全部をカバーできる優れたツールがあればいいと思います。

例えばラインの安否確認は生きていますと登録する、結ネットの安否確認は既読がされるかどうかというレベルです。返事を求めても、なかなかできない人もいます。実際、お年寄りに全部操作してもらうのは難しい面があります。いずれいいツールが開発されて難しくなくなるかもしれませんが。

(参加者)

でも、難しいで止めるのではなく、やっていかないと乗り越えられません。その「いずれ」を待たずに、今挑まないといけません。

今後、誰もがスマホ中心になります。固定電話がなくなると有線放送も難しくなりますし、防災無線も聞き取れないことが多い。今はデジタル化の時代で、全部スマホに届けばいいんです。

(市長)

防災行政無線は引き続き使っていきますが、確かにデジタル化は、前回の議会でも質問が出ましたし、皆さんからも多く意見が出ています。先ほど申しましたアンケートも含め、いくつか取り組みも進んでいて、有効な面もあるのだと思います。

◆ 多くの事業を積極的に行っていることで、事務局の負担が増えている部分があります

(市長)

話は少し変わりますが、廊下にあれだけたくさんの活動の記録が貼ってあるというのは、事務局側としても結構事業の準備などをされているのでしょうね。

(参加者)

そうですね。例年の行事は同じことの繰り返しなので、何をどう準備すればよいかも分かってきて、先々準備して進めています。ただ、事務員と主任と事務局の負担はあまり変わっていません。協議会が発足しても、協議会の対応が必要なので、むしろ増えている面もあります。行事としては、かなり多く実施していると思います。

(参加者)

その手がかかる部分も、結ネットが発信できれば、手渡して持って行ってというものがなくなって減るところが多いと思います。

(参加者)

市からの配布物は、月 2 回コミセンに地区分が届き、それを各町内会長のもとに持っていきます。町内会長は班長に渡し、班長が配布します。

紙は残りますが、届いてすぐ捨ててしまう人もいますし、情報が家族全体に伝わるとは限りません。ただ、全員にデータが届けば、もう少し伝わる可能性はあると思います。

(市長)

これを結ネットを使えば、一斉にできますね。先ほど出たように見づらいから紙が欲しい方には配る形のハイブリッドでいいかと思います。

(参加者)

今は過渡期です。できない人がいるからやれないのではなく、まず進めて、ついてこれない人をケアする方向にしないと前に進みません。

運営の会議も Web でいいぐらいです。今どきは Web でも十分 OK だと思います。結ネットを受け取った情報を見ながら、Web 上で会議をする形でもいいですし。

(市長)

お仕事をしながら各部長さんといろいろ進めるのは大変だと思いますが、仕分けや配布だけでも時間短縮できると違ってきますね。

結ネット等の電子回覧板アプリの導入が、担い手不足による町内会業務の負担の軽減に繋がればと思っていますが、アプリが使えない世帯への紙媒体の配布の負担や、紙と電子の併用による二重コストの問題もありますので、まずは先ほど申しました市民アンケートの実施から進め、検討していきます。

◆ 防災訓練を企画するにあたって各地区の訓練に見学に行き、地区で起こりやすい災害を想定して考えていくこととしています

(参加者)

私は防災を担当しており、コミュニティの意見を聞く中で一番印象に残ったのが、千代野地区の「選択と集中」という考え方です。津波はこの海拔ではほとんど来ないという前提で、72 時間以内に人命を救うことに特化した避難訓練をされていました。下敷きになった方の救出に力点を置き、結ネットで「無事です」と確認できる方をできるだけ早く把握し、連絡がつかない人に特化して救出するのが大事だと思いました。結ネットの環境整備が進めば、防災上、救える命が増えると感じます。

(市長)

11 月 9 日の防災フェスタではどんなことを行う予定ですか。

(参加者)

事業を企画した経験がなく、つい最近までのんびりしていましたが、9 月に危機管理課へ相談しました。開催している地区があるので見に行くといいわれ、林地区や出城地区を見学しました。区長理事とも一緒に行き、地区によって避難の仕方が違うと実感しました。

例えば林地区では土砂崩れを想定していて、家がつぶれた場合に「無事」「無事ではない」を外に表示し、班長さんが発災直後に確認します。「無事」は防犯上の配慮で早めにポストへ入れ、本当に倒壊して表示がない家は、結ネットで外出中などが分かれば追わなくてよい。一方、いるはずなのに反応がない場合は探す、という流れでした。

仕事のつながりで聞いた話ですが、能登半島地震で家が全壊し、正月にこたつに入っていたおばあちゃんが下敷きになったものの、こたつのおかげで助かり、消防が来ない中で近所の人が見つけて引っ張り出したことがあったそうです。

訓練では起震車で震度 7 の体験もあり、全壊が多発するのではと感じ、想定すると怖いと思いました。笠間地区は海に近い地域とは事情が違うので、センター長からも「楽しくやるだけでなく避難基準をしっかりと設けないと、災害が来てから避難所をどうするかで困る」と言われ、今いろんな地区に聞いています。林地区は土砂崩れが多いので笠間とは違い、また危機管理課に相談したいです。

(市長)

8 月 6 日、7 日の大雨のときは、林地区は避難指示を出すかどうかのところまでいきました。獅子吼高原山系から高橋川に一気に水が流れ込み、氾濫することがあります。山側で降ったときの水の集まり方はすごいです。

こちらは用水がいくつかありますが、用水は元で止められますし、最近リモートで止めています。ただ内水ではアンダーパス冠水のように本当に危ない。車が突っ込むと出られません。地区ごとに防災のやり方は考えないといけません。

森本・富樫断層は白山市で震度 6 強の想定です。能登半島地震のときは白山市は多分 5 弱で、場所によっては 4 程度でしたが、森本・富樫断層はかなり揺れが激しい。起震車体験は有効で、私も体験しましたが、あの揺れの中で逃げるのはとても無理だと感じます。家具固定も大事ですし、感震ブレーカーにも補助を出しています。家がつぶれて避難した後、停電から復旧して通電火災が起きることもあります。耐震補助は最高 210 万円まで出しています。家の中にシェルターを作る方法もありますが、住み心地は課題です。

津波については、地区で連携協定を結んでいますね。海側は逃げるのが大変なので、近くに大きくて高い建物があれば、そこへ逃げ込めると安心です。地区ごとに連携協定を結んでいるのは大事です。

あとは黒瀬の防災拠点です。何かあればそこに集約する。そのための道は横の道はできて、縦の道として黒瀬-松本四十万線の整備も知事をお願いしてきました。最近は道の駅も防災拠点として役割が大きくなっているので、今後しっかり考えていく必要があります。地区で起きやすい災害への対応を考えることが重要です。

(参加者)

近くに宮田川があります。テレビで「石川県で降水量 120 ミリ」などと騒がれることもあります。が、そうでもなかったかなと思うこともあります。ただ、基準を作るのは難しく、何ミリ降ったらどうするか盛り込みたい一方で、頻繁に避難を呼びかけるのも現実的ではなく、さらに、100 ミリを超えると外に出ない方がいいという判断もあると聞き、悩ましいです。異常気象で積乱雲が急にできて、激しく降ってすぐ止むこともあり、そこも課題です。

(市長)

高齢者の方は個別計画もありますし、そうした対応を訓練に入れているところもあります。

輪島では大洪水で川の流れ自体が変わり、家が押し流されてなくなった場所も見ました。山に近いところは土砂、こちらは水かさ、内水氾濫が中心ですね。いわゆる田んぼダムも重要です。用水もいっぱいになり、田んぼにあふれて水がたまっていましたところもあります。いろいろな想定で備えていただければと思いますし、危機管理も含めてよろしくお願いします。

本日は、さまざまなご意見ありがとうございました。笠間地区として大変積極的に事業をされ、地域づくりに取り組まれていることがわかり、大変うれしく思いました。また、地元の金城大学との連携についてはこれからさらに盛り上がりそうで、他の地区でも参考になるかと思います。結ネット等に関しても大変参考となるご意見をお聞きすることができました。今後の市政運営の参考とさせていただくとともに、皆さんの活動を支援していきたいと思います。本日はありがとうございました。